

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の自由と尊厳を理念に掲げ、地域の交流を大切に、地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し質的向上を図り安心した生活が出来るよう支援している。	○	地域との交流の機会をさらに増大させていくこと。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念を掲示し、職員は理念を意識した支援に努めており適切なサービスが提供されている。	○	何がその人に最も合った介護かの探求。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域に根ざした交流が出来るよう運営会議を行い、地域の方々と話し合いの機会を持ち、施設行事に参加して頂き又、自治会からのご協力・ご支援を頂けるよう努めている。	○	地域の人と共に楽しめるイベントを企画したい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出来るだけ地域に溶け込めるよう、通り道でお会いした時など挨拶をするよう職員全員で心がけている。通り道に花を植え環境美化に努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会にも加入しており、地域行事の参加も積極的に行っている。施設内の行事等にも地域の方々に参加を促し、地域の施設として理解していただけるよう努めている。	○	今後、参加できる地域活動を検討したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は、行っていません。	○	今後、地域とのつながりを増やしていく中で地域貢献に取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価し、外部評価についてミーティングを設け、全員で検討し次に活かしていけるよう話し合い、更なるサービスの質の向上につなげたいと考えている。	○	各職員の気付きを大切にしながら職員全員で自己評価票の作成し、サービスの向上に努めています。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者代表、入居者家族、地域住民代表、認知症有識者、地域包括支援センター職員等を構成員として運営推進会議を行い始めている。会議では、施設の活動報告や状況報告等を行い地域理解の促進を図っている。	○	松戸市のグループホームとの連携により、入居者の立場に立った質の高いケアを実践する為に、お互い学び合い情報を共有する場を協議会にお願いしたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	松戸市認知症高齢者グループホーム協議会に参加し、他グループホームとの連携を図って事業所間の交流によりサービスの質の向上に取り組みはじめました。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	松戸市は、市民後見人養成講演会を聞き学ぶ機会が有り、グループホームめいと中金杉も参加しました。個々の必要性を関係者と話し合い活用できるよう努めます。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修にも参加し、職員全員で常に話し合いを行い、防止に努めています。	○	今後、法的知識についても勉強していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ時も解約する時も常に、利用者・ご家族の話を聞き説明を行っていますので、理解は得られていると思います。</p>	○	<p>契約という事務手続きの底にある、人と人との信頼関係を重視していきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年1回の家族会(全家族参加)のほか、入居者様のご家族、ご親戚の方は気軽に来られますので、ご家族の意見は十分届けられています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時などに暮らしぶりや状態などこまめに報告し、要望等を確認しています。年1回の家族会(全家族参加)を開いています。</p>	○	<p>今後家族会開催の回数を増やすべきかどうか検討したい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の不満・苦情は、職員への連絡ノートに記載し徹底を図り、運営に反映させています。</p>	○	<p>ご家族が不満を述べられる機会を制度化するよう検討したい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員は自分の意見を自由に言える環境にあります。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員は協力的なので、必要に応じて柔軟に対応してくれます。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ここ1年ほど離職者は出ていません移動はありましたが、移動による影響は出ていません。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得(介護福祉士・介護支援専門員)に対しては、勤務体制や有給休暇取得において配慮あり。在籍期間に応じたステップアップを応援している。	○	今後法人として研修の機会の確保に目を向けたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	7月に松戸市認知症高齢者グループホーム協議会が、松戸市の声掛けで再開されました。他のグループホームとのケアマネとの連絡を取り始めています。	○	今後の課題として意識しています。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	冗談が言えるような雰囲気作りを心がけていますまた、各職員ごとに、個人差を配慮した勤務表を作成しています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	仕事に、意欲と責任を持ち楽しみながら、職員皆がずっとこの職場で働きたいと思える職場にするのが目標です。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	話しやすい環境を作り、相手の態度や表情・行動・言葉などを観察・把握して利用者・家族と共感するように努力しています。、最初の出会いをもっとも大切にしています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時などにご家族の話を聞くようにしていますので、「親を思う気持ち」は痛いほど分かります。これからも努力していきたいと思えます		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況によって必要としている支援を見極め、出来る限りの努力をしています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居初日は、利用者の不安を取り除く為、出来るだけご家族も宿泊していただくようお願いしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当施設には、元教育者のお年よりも多く、その博学に驚かされることも珍しくありません。みんないつまでもお元気でいて欲しいと心から思います。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の顔が、柔和で明るくなっていくのを見て、嬉しくなるのも職員もご家族も同じだと思います。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族との関係にまで踏み入る事は、慎重でなければならぬと考えています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類・ご近所の友達など馴染みの人が来やすいように声掛けをしています。またハガキや手紙の投函依頼はよく受けます。関係が途切れないよう、支援に努めています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	話ができるように利用者の関係を把握し、テーブルでの着席位置など、細かい工夫をしています。また利用者同士が、声掛けられ一人ひとりが支え会えるように努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者・ご家族よりの電話や相談にもその都度対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴など暮らし方・入所されてからの思いや希望・意向の把握に努めている。又センター方式のアセスメントを活用して適切な支援計画につなげている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申込時より入居利用者本人および家族より生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境などを配慮し、希望に応じながら安心した生活を過ごして頂けるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員が個々の利用者状況を把握し、サービス業としての心得を自覚しながら適切な支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及びご家族等の状況希望を反映すると共に職員にも現状改善等のカンファレンスを行い介護計画を立てている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に評価を行い計画の見直しを行っている。入居者の状況に変化があった時はご家族と相談しながらその都度現状に即した新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の精神状況、健康状況などを個別記録に記入した職員全員が入居者一人ひとりの意向を把握し適切な介護を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院との連携が密になされており、往診対応が柔軟に行われている。又受診についても職員が対応しておりご家族の負担軽減を図っている。		
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方に「笙」の演奏会、バイオリンの演奏会、フラダンス等協力して頂いている。警察、消防の方にも当施設の利用者状況を把握して頂いており協力が得られている。	○	今後、民生委員や自治会の方とも交流をもちたいと思います。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況・希望により他施設への移動など地域の医療機関、他のケアマネジャーやサービス事業者と連携により他のサービスを利用する為の支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂いており今後利用者の必要性に応じて地域包括支援センターと連携を図り協働するよう努めます。	○	権利擁護や統合的なケアマネジメント等について地域包括支援センターと協働していきたいと思います。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を中心として適切な医療を行っている。救急時には近くの総合病院との受け入れ体制が出来ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者個々にあった専門病院へ施設担当医より紹介状が出され適切な精神・認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	デイサービスめいと中金杉が併設されており、その看護職員との連携を蜜に行い、利用者の日常の健康状況を相談しながら医療面の支援を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先のソーシャルワーカーとの連携に努めている。入院中も利用者の状態把握に努めており、利用者及びご家族が安心して過ごせるよう対応している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアは行っていないが、主治医、家族等と連絡を蜜にとり健康状態を把握している。利用者一人ひとりについてご家族と終末期及び重度化における方針を話し合いながらサービスを提供している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在協力病院を中心に重度化や終末に向けた支援を話し合っている。	○	事業所の「出来る事、出来ない事」をに備えて検討していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所申込をされた時、利用者、ご家族と話し合い当施設で生活になじんでいただけるように情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人の書類等については鍵付きの書庫で保管し個人情報の保護に努めている。日常的にも入所者のプライバシー及びプライドに配慮した言葉かけに注意して相互の信頼関係を大切にしている。</p>	<p>○ 個人情報に対しては、厳重な管理を行います。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者も一緒になって食事の準備などを行います。その際、本人のやりたいという意思を尊重しています。食事以外にも本人のペースで自由に過ごしてもらっています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事の時間以外は日課に取り決めが無く、本人のペースで自由に過ごしてもらっています本人の希望により掃除、片付け等の生活活動に参加し、一人の利用者がピアノを弾けば、他の利用者が歌う、職員は、一緒に参加させてもらっています。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>施設でも、美容師に来てもらっていますが、お気に入りの美容院がある方は、家族が連れて行かれています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備・盛り付け・後片付けを職員と共同で行っている。静かな音楽を聴きながらゆっくりと・楽しみながら食事が出来る雰囲気作りを大切にしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>1日に2回、おやつがあります。「おやつ」はみんなの好みを考えて買っています。また誕生会など誕生者の好みを聞き用意しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの排泄時間を、職員全員が、把握しており、誘導することで失禁の軽減につながっている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>本人の希望や状況に応じて適切な入浴支援を行っている。入浴は毎日実施できる体制になっておりますが、入浴時間については、希望に添えない事もあります。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>食後、居室に自力で戻られている方は、自分のペースで生活されています、一人ひとりの体調、状況で休息出来る様に職員全員が、心掛けています。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>楽器の演奏が出来る人、絵を描くのが好きな人などに応じて、応援対応しています。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金については、職員はタッチしていません。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>ベランダで過ごしたり、近くを散歩したりしています。歩行に不安が有る利用者に対しては、玄関先の花を見に職員と一緒に出る事もあります。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族も面会に来られると利用者の体調、天候などで外気浴・散歩・ドライブなどに出かけられる事も有ります。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の手紙及び家族からの電話等その都度対応しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	歩いて来られる距離にある利用者の家族・知人・友人もおり気軽に来られています、入所されている利用者も他の家族が見えられるのを楽しみにしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない工夫をしています。玄関に鍵をかけず利用者の家族・知人など自由に出入りできるようになっています。	○	徘徊者が、夜間に他の利用者の居室に入室してしまい苦情が出ており職員と話し合いをいっている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。外に出た場合でも無理に引き止めず、見守りや言葉掛けにより柔軟に支援している。居室には、鍵は、設置していない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に入る時は、必ずノックし声掛けを職員全員が行っています。トイレの見守りもプライバシーに配慮しながら行っています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・消毒液など利用者の行動を確認しながら危険を防ぐように見守りをしています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	1人ひとりの利用者の活動状況を把握しながら状態に応じた見守りを職員全員で行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には、行っていません。	○	今後、定期的に行うよう検討します。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練などは、定期的に行っています。	○	普段から、入居者の避難誘導を練習することも必要だと思っています。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	病状・身体状況など変化があった時には、主治医より説明がなされている。また日常生活状況については、面会時にグループ長、ケアマネより話をしています。	○	今後、終末期ケアとして、グループホームはどこまで出来るのかを検討していかなければならないと考えています。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定・睡眠時間・食事摂取量・水分チェックなど体調の変化や異変の発見に努め気付いた際には速やかに情報を共有し看護師に連絡し指示を受けています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が利用者の病状を理解しており、薬に対しても服薬の支援を行い病状の変化に気付くよう努めています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い体を動かすように声掛けし予防に取り組んでいます。また便の状態も職員が把握し申し送りしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、洗面所に誘導し歯みがき・うがい等の声掛け、また指示が通じない利用者に対しては口腔ケアの介助を職員全員が行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成し、栄養のバランスを確保できるように支援しています。また水分チェック・食事摂取量については表に記録する事で状態がわかるようになっています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員全員が利用者に対して手洗いの声掛けを実施している。またおやつ・食事の前に消毒を実行しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板など塩素系の洗剤で消毒している。常に調理用具等の衛生管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に草花を植えています。ごみ出しに通られるご近所の方とも話ができるようになりました。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	東側の垣根を低くする事で、光が入り部屋が明るくなっています。また利用者が、外を見ることで季節感、人の動きなどを見ることが出来、気分の転換を図れるように工夫しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車椅子対応利用者、気の合った利用者同士、世話をすることが好きな利用者など、一人ひとりの状態・性格などを考慮し、希望に沿った着席位置の配慮を心掛けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	家族の泊まり部屋というのは設置していません。入所されて 最初の日に利用者の不安を取り除く為、本人の居室に泊 まってもらっています。またご家族が希望された時には、いつ でも本人の部屋に泊まってもらう事は出来ます。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	利用者の起床後、換気のため窓を開けています。温度にも 気を付け夜間布団で休まれて居る時、活動している時など、 状況に応じてこまめに対応しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	トイレの介助バー・手すりなど利用者が、自立できるように 個々に合わせて工夫しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	自室が分かるよう、目印になるネームプレートを工夫してい る。また、私物には、名前を書いてもらい他の利用者との 区別が付くようにして貰っています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダはよく活用しています。季節の花を近くの花屋まで 散歩しながら買いに行き、一緒に植え、水遣りを楽しんでい ます。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
		<input type="radio"/>	数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	たまにある
		<input type="radio"/>	ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="radio"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者に「この施設に居て自分は幸せだ。」と感じて貰いたいのは、すべての施設の共通の願いだと思います。当施設がそのために、特に取り組んでいる事は、入居者に各自の居室から出て、いつもリビングルームに集まってもらうということです。「リビングルームに行けば、みんなが居て団欒があって楽しい。よし！今日もリビングルームに行ってみみんなとおしゃべりでもしてくるか！」という気持ちになってもらう事です。みんなが揃えば、いろいろなゲームが始まります。これからの季節は、「かるた」が人気です。輪投げもみんなで作れば、興奮します。ゲームに飽きたら、みんなが童謡を歌います。指揮者も伴奏者ももちろん入居者です。誰かの言った一言がみんなの笑いを誘います。リビングルームにみんなの笑顔があふれます。昼間は、全員がいつもリビングルームにいて笑顔の絶えない施設であること、これが施設の目標です。